

学校だより

第 118 号
2019.12.13
群馬工業高等専門学校
(広報委員会)



令和元年度 工華祭

目次

特集<学生の活躍>

全国制覇を目指して / 4E 黒岩 航輝	2
広島に行ってきました~!! / 3C 重田 みゆ	2
将来的には製品化も目指しています! / 専攻科生産システム工学専攻 2年 堤 一真	2
硬式テニス部全国高専大会出場報告 / 4C 細川 裕紀	3
男子団体初の3位 / 4C 石井 裕樹	3
研究発表に向けて / 3K 白崎 圭祐	3

挨拶

校長挨拶 高専生活をどう過ごすか ~私の高専時代~/ 校長 山崎 誠	4
後援会会長挨拶 聴き上手話し上手 / 後援会会長 篠原 寛子	4

工華祭

令和初の工華祭 / 工華祭実行委員長 狩野 琢磨	5
時かめ種は生えぬ、そして咲かぬ / 学生主事補 太田 たまさ	5
Re:make ~平成を越えた工華祭~/ 1年1組(C) 伊藤 綾香 他	6

全国高等専門学校体育大会

全国大会出場報告	
陸上競技部 全国大会出場報告+α / 4M 田中 健太 他	8
令和元年度 全国高等専門学校体育大会結果一覧	10
令和元年度 関東信越地区高等専門学校体育大会結果一覧	10

コンテスト・全国高等専門学校将棋大会

コンテスト参加報告	
ロボコン地区大会 今年に布に挑戦! / 2M 新井 稜暁 他	11
全国高等専門学校将棋大会出場報告	
高専将棋大会の結果と今後の方針 / 3K 永島 政典	11

地区文化発表会

主幹の翌年とその後 / 地区文発代表(学生会会長補佐) 狩野 琢磨	12
地区文発参加報告	
吹奏楽部 地区文化発表会での演奏を終えて / 3J 石関 隼人 他	12

1日研修旅行

自然を感じられる素敵な場所 / 1年1組(E) 岡田 康暉 他	14
---------------------------------	----

研修旅行へ行って / 2M 永井 孝太 他	15
-----------------------	----

海外研修報告

オーストラリア語学研修と海外学生研修 / 国際交流室長 崔 雄	16
「外国人になってみて」 / 4J 大久保 拓哉 他	16

インターンシップ

インターンシップ支援室から / インターンシップ支援室長 先村 律雄	18
土木を新たな視点から / 専攻科環境工学専攻 1年 中村 優作 他	18

着任挨拶

果てしないイギリス文学の旅路 / 一般教科(人文科学) 講師 板谷 洋一郎	19
群馬高専卒業から再び群馬高専へ / 専攻科 特命教授 橋本 修一	19
少しでも群馬高専のお役にたてるよう頑張ります / 看護師 伊藤 恵	19

ニュース&トピックス

令和最初の球技大会 / 一般教科(人文科学) 教授 櫻岡 広	20
寮生バンザイ◎ / 寮祭実行委員長 加藤 拓航	20
地区交流会に参加してきました! / 学生会会長 中島 弘翔	20
量子工学からの熱いエール / 電子メディア工学科 教授 五十嵐 睦夫	20
群馬高専とモンゴルの3高専との交流 / 国際交流室長 崔 雄	21
またそばを食べたい / 3J ボヤンバド ヒレグド	21
「マックス・プランク宇宙物理学研究所より」 / 一般教科(自然科学) 准教授 渡邊 悠貴	22
第20回正観寺沼野鳥観察会(サギのねぐら入り観察)	
／地域連携テクノセンター副センター長 宮越 俊一	22
「光るイクラが未来を語る!! エネルギーを放出するイクラを作ろう!!!」報告	
／物質工学科 教授 太田 道也	22
電子メディア工学科講演会報告 / 電子メディア工学科 准教授 布施川 秀紀	23
エンジニアの道を選ばなかった先輩からの熱いメッセージ	
／電子情報工学科 准教授 荒川 達也	23
はやぶさ2に期待を馳せて / 機械工学科 教授 黒瀬 雅詞	23
「瑞宝小綬章を戴いて」 / 名誉教授 水出 正一	24
学位取得にあたって / 環境都市工学科 助教 井上 和真	24
編集後記	24

(題字・下田 功 初代校長)

学生の活躍

陸上競技 男子3000mSC 第2位・男子5000m 第3位

全国制覇を目指して

4E 黒岩 航舜



高専入学時、私は全国大会で優勝することを夢見て陸上競技部に入部しました。しかし、1年生の頃は周りのレベルが高く、全国優勝の目標は遥か遠い目標となっていました。しかし、3年生の時3000mSCという種目に出会った私は、

急激にタイムを上げ今年の全国大会では高専ランキング1位で挑める程に成長し、全国優勝の目標はもう目の前になっていました。

全国大会本番、レースはスローペース展開となり、ラスト1週の勝負となりました。しかし、粘りきれなかった結果わずか2秒差で2位と悔しい結果となってしまいました。5000mも出場しましたが、わずか1秒の差で優勝を逃し3位という結果に終わってしまいました。

しかし、努力した約3年半はとてもいい経験でした。これからも陸上競技に関われたら嬉しいです。

水泳 女子100mバタフライ 第2位

広島に行ってきました~!!

3C 重田 みゆ

8月24、25日に広島県で全国高専大会が行われ、私は50m自由形、100mバタフライ、フリーリレーに出場しました。50m自由形は5位、100mバタフライは2位という結果でした。

100mバタフライでは、折り返しのターンで電光掲示板が見え、自分が3位であることに気がきました。隣のレーンの方は圧倒的に速く、1位は難しい状況だったので、それからは2位を目指して必死に泳ぎました。タッチした瞬間は目が悪いため電光掲示板が全く見えませんでした。表彰の係の方が自分のレーンにいたときにはとても安心しました。表彰式ではなんとか群馬にメダルを持って帰って来れたことの安心感と

嬉しさでいっぱいでした。

今回、このような結果が出せたのは引率して頂いた先生や応援してくれた部員のおかげだと思っています。来年の地区大会に向けてまた頑張っていきたいです。



高専ワイヤレスIoT技術実証コンテスト成果発表会「匠の技賞」受賞

将来的には製品化も目指しています!

専攻科生産システム工学専攻 2年 堤 一真

この度、2018年度高専ワイヤレスIoT技術実証コンテストにおいて「ピッツァ窯IoT」のアイデアが採択され、「匠の技賞」を受賞しました。

開発したシステムでは、ピッツァ窯の使用状態をメーカー側で監視することを目的として、燃焼状態などの測定データをインターネット上のクラウドに集約します。これにより、各店舗にある窯の状態をデータとして一元管理できるため、窯の不具合の発見や点検整備のスケジューリングなどを効率よく行えるようになります。

2019年5月31日に東京ビックサイトで開催された成果発

表会では、緊張しながらも無事に発表を終えることができました。外部でプレゼン発表をする機会が今までなかったこともあり、今回の発表は良い経験になったと思います。共同研究先である増田煉瓦様に改めてお礼申し上げます。





テニス 男子団体戦 第3位

硬式テニス部全国高専大会出場報告

4C 細川 裕紀

硬式テニス部の全国高専大会は、山口県宇部市の中央公園テニスコートで開催されました。そして、私たちは男子団体戦に出場しました。団体戦はシングルス2試合、ダブルス1試合の全3試合で行われました。

一回戦は北九州高専に2-1で勝利することができました。二回戦では、地区大会で負けてしまった長野高専との試合でしたが、オーダーを工夫することでなんとか2-1で勝つことができました。しかし、長野高専との試合でメンバーの一人が怪我をしてしまい、次の準決勝ではいつも通りのプレイができず負けてしまいました。

団体戦の結果は、前回と同じく3位入賞で悔しかったのですが、今回の大会は前回の全国高専大会と比べ、出場選手全体のレベルが上がっていると感じました。その中で前回と同じ結果を残せたことは良かったです。次回はより良い結果を出せるように頑張ります。



剣道 男子団体戦 3位

男子団体初の3位

4C 石井 裕樹

私たち群馬高専剣道部は関東大会で6連覇をしてきました。しかし、全国大会では3位入賞を成し遂げたことがまだありませんでした。今回の大会では今までに成し遂げられなかった3位入賞を目標とし、日々稽古してきました。その結果、群馬高専初の3位入賞を果たすことが出来ました。

時には辛いこともあり、全てが上手くいったわけではありませんでした。しかし、先輩や先生方に支えられてここまですることが出来ました。3位に入賞した時はとても嬉しく、全員で喜びを分かち合いました。そして、全国大会3位になれたのは、今まで剣道部を支え歴史を作ってくださった先輩方の力があってこそだと思います。このような結果を残せた

こと本当に誇らしく思います。これからもこの剣道部を途絶えさせずに歴史を作って欲しいと思っています。

最後に、この仲間たちと剣道ができて本当によかったです。最高の思い出になりました。



理科部 サイエンスキャッスル研究費 Honda賞 採択

研究発表に向けて

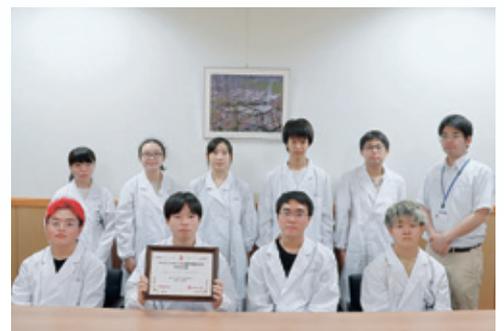
3K 白崎 圭祐

このたび理科部の研究に対して、本田技研工業株式会社・株式会社リバネス主催のプロジェクトより、「サイエンスキャッスル研究費(Honda賞)」の採択が決定しました。Honda賞による研究助成で行える実験の幅が広くなり、また、実験の効率が上がったことを実感し、採択されて本当によかったと思います。この場を借りて主催の両社に感謝申し上げます。

未知の事象に対して現状で可能なアプローチを考え、実行し、それをまとめるのは私が思っていたよりずっと大変なことではありますが、とても有意義な経験だと感じているので、これからも頑張っていきたいです。

また、Honda賞の採択に伴い、12月下旬にサイエンス

キャッスルという大会で研究発表することが決まっていますので、そこで今回頂いた賞に見合う研究成果が発表できるよう、今後とも理科部一同研究活動に専念していきたいと思います。



校長 山崎 誠

もう48年前になります。私は長岡高専の電気工学科に入学しました。この頃、日本は経済的に豊かになったものの、公害問題や70年安保問題など時代の変わり目を感じさせる課題がありました。大学では学生運動が広がっており、高専にもその影響がありました。田舎の中学を出たばかりの私には、高専に入学してからも多くの戸惑いがありましたが、学校には文化的な刺激が満ちていました。高専は技術者教育が基本ですが、学生の皆さんは10代後半の多感な時期に学生生活を送ります。人間性や技術者力という人格形成の重要な時期でもあり、学校の文化的な雰囲気は教育にとっても、大きい要素だと思います。

私が本を読むようになったのも高専時代の経験が大きいです。多読というほどではありませんが、岩波新書等を先輩などから薦められて読むようになりました。本を読むことは、文字から具体的なイメージや論理を自分で再構築することで、思考力を鍛える意味でも大切なことです。専門的な内容を学習する上でも、自分が自立して学習する上でも読解力は必要です。

学生時代に課外活動を体験することも大切です。私は陸上競技部に5年間所属しました。卒業後もOB会等で交流が続いています。学生会や寮生活も経験し、学園祭(高志祭)や寮祭も懐かしい思い出です。特に演劇大会は忘れられません。5年生が中心となってオリジナルの脚本を作り、学園祭では学科対抗、寮祭ではチーム対抗

で競い、毎年大変盛り上がっていました。

経済産業省が2006年に提唱した「社会人基礎力」というものがあります。「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力で構成されています。これらの能力を高専生活で身に着けることができます。特に授業以外の活動経験が非常に役立つと思っています。学生の皆さんは5年間、専攻科も含めれば7年間で群馬高専で過ごすことになります。授業や研究活動はもちろんですが、クラブ活動やコンテストへの参加等、自分で成長を実感できる学生生活に挑戦してください。私の高専時代には無かった、国際性を身につける経験も今日では多くのチャンスがあります。高専生活を思いっきり楽しむ事こそ、一番の成長に繋がるとと思っています。高専生活を楽しみ、成長して下さい。



後援会会長 篠原 寛子

会員の皆様や学校教職員の皆様のご協力のもと、後援会総会、地区懇談会、学年別保護者懇談会・進路説明会と後援会事業を実施することができました。

ありがとうございました。

事業を通して聴くこと、伝えることの難しさを改めて感じました。

その中でも、学年別保護者懇談会・進路説明会の学生の体験談から上手に聴くこと、話すことのヒントをもらうことができました。

「はっ」とすると同時に「そうだよな」と納得とともに反省。

「ちょっとしたほめ言葉がうれしかった」

ほめることも忘れてしまいがちです。

「命令は反発してしまう。提案してもらえれば…」

提案のつもりが指示でした。

「子どもから話があったときには否定しないで一度は聞いてほしい」

話さねぎっちゃったね。

反省ばかりしていても仕方ありません。このヒントを生かして

いける素直さと心の余裕を持ち続けたいものです。

後援会ホームページもぜひご覧ください。

後援会HP <http://blog.gunma-kousen.com/>





令和初の工華祭

工華祭実行委員長 **狩野 琢磨**

本年度の工華祭テーマは「Re:make ~平成を越えて～」でした。このテーマは、今までの工華祭を、作り直して平成の工華祭を越えるという意味が込められていました。屋台が例年より多くなったり、物品の配布によりクラスの負担を減らしたり、ステージ企画が大規模になってかえってきたり、越えられるように頑張ってきました。工華祭当日は、例年より多くの来場者が訪れ、2日目のお昼ごろには完売する団体も多かったです。そういった意味では大成功と言えるでしょう。

しかし、まだまだ問題が山ほどあります。想定以上の来場者に、駐車場の数や、シャトルバスの本数が足りなかったり、2年に1回ということもあると思いますが、準備や当日の動

きがスムーズに行えることが少なかったりしました。これらはまだまだRe:makeできます。

本来ならば、4年のわたしは次回の工華祭では卒業しているはずなので、のちの実行委員に引き継ぐことは難しいですが、本年度学生会執行部とも一緒に開催したこのチャンスを活かして、今後の工華祭に貢献していきたいと思います。

本当に忙しく、楽しい2日間でした。



蒔かぬ種は生えぬ、そして咲かぬ

学生主事補 **太田 たまき**

令和最初の工華祭は晴天に恵まれ、大盛況のうちに終了しました。今回は学生会担当として準備段階から見守ることになりましたが、皆さんのがんばりで私自身は驚くほど楽をさせてもらったのではないかと、というのが正直な感想です。

題に挙げた「蒔かぬ種は生えぬ」というのは、私が本校に着任した際に「座右の銘」として挙げたものです。それから7年、今回の工華祭ほどこの言葉の意味を実感したことはありません。学生会や工華祭実行委員会はもちろん、クラス代表、部活動代表者などの表立った人々はもちろん、裏方に回った学生の皆さんに学校職員の方、出入りの業者さん、本校周辺の住民の方、もろもろのご理解とご協力があったので成功でした。加えて、根底にはこれまでの21回の積み重ねがあることも忘れてはな

りません。そしてそこに一人ひとりの学生、来場者のみなさんの楽しむ心が加わって初めて、生えた芽から咲いた華は咲き誇ります。皆さんが工華祭で咲かせた青春の華の裏には、皆さん自身を含め、いろいろな人が蒔いた種があることを感じ取ってくれたらと思います。

お説教じみた内容になってしまいましたが、私自身、次の工華祭は役目を離れて、また違った角度から楽しめるかなと今から心待ちにしています。第23回は有志企画で参加してみるものアリかな。



第22回 工華祭
 Re:make ~平成を越えて~

日時 2019/11/02 Sat 9:30-16:30
 2019/11/03 Sun 9:30-16:30
 会場 群馬県前橋市鳥羽町 580 番地
 群馬工業高等専門学校
 Web <https://kokasai.com/22nd/>

群馬工業高等専門学校



Re:make～平成を越えた工華祭～

1年1組(C) 伊藤 綾香

私は今回実行委員として、1年1組の学生として、演劇部員として工華祭に携わせて頂きました。準備日の最初から当日、片付けの最後まで一人ひとりが協力してこの工華祭を作り上げてくれたことと思います。私は皆で協力することの大切さや責任の重大さなど多くのことを学び、成長することが出来ました。また、自分なりに「Remake」出来た2日間でした。

最後に皆さんはどんな工華祭を「Remake」出来ましたか？



たません

2年2組(E) 坂本 悠菜

2日間の準備期間を経ての工華祭はとても楽しいものでした。殆どのクラスを見て回りましたが、どれもクオリティが高く、驚きました。私のクラスの「たません」も予想以上の大盛況でした。私にとって今回は初めての学園祭でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。クラスの皆さん、有難う御座いました。

タピオカミルクティー

3K 内田 玲緒

私たち3Kは、タピオカジュースを販売しながらカジノをできるというコンセプトのもと、「カジノ喫茶・タピオカ」の企画を進めた。

タピオカジュースはほかのクラスでも販売していたため、販売では負けないように3Kみんなで協力し、約500杯を売り上げた。2年後の工華祭でも多くのタピオカジュースを売り上げたいと思う。



工華祭



工華祭を終えて

工華祭を通して私たちは、4年間で様々なことを学び、習得してきたのだと実感しました。私たち4Jは、ポップコーン販売とゲームセンターを運営することに決め、夏休み前から準備を始めました。プログラムのバグや仕様変更など、多くの困難が待ち受けていましたが、皆で協力し、1つずつ問題を解決していきました。そして、工華祭当日には、多くのお客さんに、私たちの技術力を称賛していただくと共に、私たちの企画を楽しんでいただきました。この経験を胸に、今後も様々なことに取り組んでいきたいと思えます。

4J 大久保 拓哉



変わらぬ高品質「M印良品」

5Mクラス企画「M印良品」では、キーホルダと精密コマの販売を行いました。両方とも実習工場で製作したもので、クラス企画の中で最も機械工学科らしい企画のひとつです。

皆さんは「M印良品」のキーホルダの裏に、学生達のたくさんの作業があることをご存知でしょうか。レーザ加工機で切り抜いた部品は、そのままでは製品になりません。ひとつひとつ手作業で研磨し、光沢を出す必要があります。キーホルダは合計800個ほど生産するので、研磨に要する時間は膨大です。お手元に「M印良品」のキーホルダがありましたら、その美しい光沢から5M学生の努力を感じてみてください。

5M 手嶋 勇太



陸上競技部

全国大会出場報告+α

陸上競技部は8月17日、18日に広島県のエディオンスタジアムにて開催された第54回全国高等専門学校体育大会陸上競技において、4年電子メディア工学科の黒岩航舜が出場しました。出場種目は5000m、3000mSCの2種目でした。全国というレベルの高い大会でしたが、黒岩は出場した5000mでは3位に入賞、さらに3000mSCでも2位に入賞という素晴らしい結果を残すことができました。

マネージャーとして参加した全国大会ではありましたが、黒岩の活躍や他高専の選手の競技を間近で見ることができ、非常に貴重な体験でした。全国大会には直接関係ないことでは

ありますが、本場のお好み焼きを食べたことや原爆ドームに行けたことも貴重な体験であると考えております。

4M 田中 健太



水泳部

全国大会 in 広島

我々水泳部は8月24、25日に広島県で開催された全国高等専門学校体育大会（水泳競技）に選手5名、マネージャー1名、引率教員1名の計7名で参加しました。

私は100m自由形に出場しましたが、結果は予選敗退と残念な結果で終わってしまいました。周りの選手は自分とは比べ物にならないほどのスピードで泳ぎざっていき、全国大会のレベルの高さに驚かされたと同時に、自分の非力さ、練習不足を感じさせられる大会でした。しかし全国大会というハイレベルな舞台で泳げたこと、ハイレベルなレースを見られたことは自分にとってとてもいい経験になりました。

来年は今回の大会で学んだことを活かし、より多くの部員が全国大会に出場するとともに良い結果を残せるように頑張りたいです。

3E 簾谷 京平



硬式野球部

最後の挑戦

硬式野球部は8月末に岡山県の倉敷市で開催された全国大会に出場してきました。新チーム発足時から掲げてきた「全国優勝」という目標は達成できず、初戦敗退という形に終わってしまいました。しかし、全国大会に出場して試合ができたのは顧問の先生方やチームメイトの支えがあったからです。今大会は自分たちがいかに恵まれた環境で野球ができていたか改めて実感することができました。来年は今年度でも主力として活躍した後輩たちが多く残っているの、一人でも多くの方に群馬高専野球部を応援していただければ幸いです。

最後に、入部してから4年半ともに戦ってきた仲間には心から感謝しています。高専野球部の主将として至らないことが多

く、迷惑をかけることも多かったです。いろいろな経験をしてとても楽しい時間を過ごすことができました。かけがえない時間をありがとうございました。

5E 小池 陸生



学校体育大会 出場報告

テニス部

素晴らしい仲間と

私は1・2年生の時、地区大会の準決勝で敗退し全国大会の出場権を逃してきました。その悔しさをばねに、この二年間は週六日の練習を仲間とともにこなしてきました。昨年、三度目の地区大会で優勝し、全国大会の出場権を手に入れました。しかし全国大会では、緊張感に打ち勝つことができず、一回戦敗退という情けない結果となってしまいました。そして今年も地区大会では優勝できたのですが、全国大会では満足のいく結果を残すことができませんでした。全国大会のレベルの高さに圧倒されるだけでした。しかし、1年生から5年生までの素晴らしい仲間や、入部時から熱心に指導してくださった永田コー

4C 服部 亜美



チ、小川先生とともに、全国大会に出場できたことを嬉しく思っています。一生の思い出になりました。

ソフトテニス部

高専全国大会を終えて

日々の練習が実を結び20数年ぶりに地区大会で優勝することができた。(前は平成3年)私たちは、期待と不安を胸に高専全国大会に挑んだ。予選リーグの相手は鶴岡高専と近畿大学高専となった。これは、前回大会と全く同じ組み合わせで、両校に昨年大敗していた。行きの道中では、勝ちたいという気持ちが強く、やる気に満ちあふれていたが、大会会場に近づくと不安が大きくなり、大会会場に着くと、場の空気に吞まれてしまい、練習でも思ったような動きをすることができなかった。

初日の大会本番では、気持ちを切りかえ臨むことができた。

2年1組(C) 横澤 遥樹

結果として、両校に負けてしまったが、昨年に比ベポイントを多く取ることができ、自らの成長



を感じることができた。この経験を活かして、日々の練習し、来年も全国大会へ挑戦して予選突破したいです。

剣道部

「緊張と自信」

8月24日に行われた、全国高専剣道大会女子個人戦に出場してきました。昨年に引き続きの出場だったので前回より良い成績をとることを目標に地区予選からの約1ヶ月間必死に練習しました。

そして迎えた大会当日、私は極度のあがり症でその日も例に漏れず朝から緊張と不安で一杯でした。その緊張が悪い方に転び、自分の思うような剣道ができず1回戦で敗退してしまいました。今でもあの時の試合を思い出すと情けなく思います。

「緊張は自信のなさの表れ」と聞いたことがあります。自分で納得できる剣道ができるよう、自分の技に自信が持てるよう日々稽古に励んでいこうと思います。そして来年は緊張せず

2年1組(E) 須藤 雛子

堂々とした態度でまた全国で戦えたらと思います。



令和元年度 全国高等専門学校体育大会結果一覧

種目	開催校	開催期日	結 果				
陸上競技	広島商船	8月17日	男子3000mSC	2位	黒岩 航舜	9分48秒62	
		8月18日	男子5000m	3位	黒岩 航舜	16分02秒55	
水 泳	広島商船	8月24日 8月25日	総合(学校別得点)	21位			
			女子50m自由形	5位	重田 みゆ	29秒59	
			女子100mバタフライ	2位	重田 みゆ	1分08秒68	
			男子100m自由形	予選19位	藤谷 京平	1分01秒64	
			女子100m背泳ぎ	予選12位	岡本 季咲良	1分20秒31	
			女子200m個人メドレー	予選10位	岡本 季咲良	2分53秒06	
			女子200mフリーリレー	予選11位	岡本、青木、多田、重田	2分17秒98	
野 球	津 山	8月20日 8月21日 8月22日	1回戦敗退	群馬 7対9	仙台・名取		
		テニ ス	宇 部	8月21日	男子団体戦	3位	
8月22日	1回戦			群馬 2対1	北九州		
8月23日	2回戦			群馬 2対1	長野		
	準決勝			群馬 0対2	香川・高松		
	男子個人戦ダブルス			ベスト8	細川 裕紀・服部 世那		
ソフトテニス	大島商船	8月31日 9月 1日	男子団体戦	予選敗退			
			予選ブロック	群馬 0対3	鶴岡、群馬 0対3	近畿大学 0勝2敗	
剣 道	大島商船	8月24日 8月25日	男子団体戦	3位			
				予選リーグ	群馬 3対2	仙台・名取、群馬 2対2	旭川(総本数3-2) 2勝
				準決勝	群馬 1対3	弓削	
				男子個人戦	ベスト8	井原 啓賀	
			女子個人戦	1回戦敗退	須藤 雛子		

令和元年度 関東信越地区高等専門学校体育大会結果一覧

種目	開催校	開催期日	結 果		備 考			
陸上競技	茨 城	6月29日 6月30日	男子総合(学校対抗)	6位				
			女子総合(学校対抗)	5位				
			男子5000m	3位	黒岩 航舜	16分09秒39	全国大会出場	
			男子3000mSC	2位	黒岩 航舜	10分11秒64	全国大会出場	
水 泳	長 野	7月21日	[特別表彰:在学中同一種目3回1位]	重田 みゆ	女子50-100mバタフライ			
			総合(学校対抗)	4位				
			男子100m自由形	2位	藤谷 京平	1分00秒41	全国大会出場	
			女子50m自由形	1位	重田 みゆ	29秒49	全国大会出場	
			女子100mバタフライ	1位	重田 みゆ	1分09秒28	全国大会出場	
			女子100m背泳ぎ	2位	岡本 季咲良	1分18秒01	全国大会出場	
			女子200m個人メドレー	2位	岡本 季咲良	2分48秒06	全国大会出場	
			女子4x50mフリーリレー	2位	小川、多田、岡本、重田	2分19秒16	全国大会出場	
女子4x50mメドレーリレー	2位	岡本、小川、重田、多田	2分33秒96	全国大会出場				
野 球	長 野	6月29日 6月30日	1位					
			1回戦 群馬 9x対8	長野 9回サヨナラ				
			準決勝 群馬 4x対3	小山 延長10回サヨナラ(タイブレーク)	全国大会出場			
決勝	群馬 9対4	茨城						
バレーボール	小 山	7月12日 7月13日	男子 予選リーグ敗退					
			群馬 0対2	サレジオ、群馬 2対0	産技荒川、群馬 0対2	木更津 1勝2敗		
バスケットボール	サレジオ	7月6日 7月7日	女子 予選リーグ敗退					
			群馬 0対2	長野、群馬 2対0	茨城、群馬 2対0	産技荒川 2勝1敗		
サッカー	茨 城	7月6日 7月7日	男子 予選リーグ敗退					
			群馬 66-85	産技荒川、群馬 43-105	木更津 0勝2敗			
			女子 3位	群馬 52-38	産技品川			
			群馬 41-109	長岡				
テニス	産技荒川	7月20日 7月21日	1回戦敗退					
			1回戦	群馬 0対2	東京			
			男子団体戦	2位				
				2回戦	群馬 2-1	木更津	全国大会出場	
				準決勝	群馬 2-1	東京		
				決勝	群馬 1-2	長野		
				男子シングルス	3位	服部 世那		
		3位	細川 裕紀					
	男子ダブルス	2位	服部 世那・細川 裕紀	全国大会出場				
		3位	大隅 敬士・柳沼 謙伸					
	女子シングルス	1位	服部 亜美	全国大会出場				
ソフトテニス	群 馬	7月6日 7月7日	男子団体戦	1位				
				予選リーグ	群馬 2対1	長岡、群馬 3対0	東京 2勝0敗	
				準決勝	群馬 2対1	茨城		
				決勝	群馬 2対1	長岡		
			男子ダブルス	入賞者なし				
			女子ダブルス	3位	下谷 菜々子・井坂 美空			
卓 球	東 京	7月6日 7月7日	男子団体戦	2回戦敗退				
				1回戦	群馬 3対1	産技品川		
				2回戦	群馬 0対3	産技荒川		
				男子個人戦シングルス	入賞者なし			
			男子個人戦ダブルス	入賞者なし				
			女子個人戦シングルス	入賞者なし				
			女子個人戦ダブルス	入賞者なし				
バドミントン	長 岡	7月20日 7月21日	男子団体戦	3位				
				2回戦	群馬 2-1	茨城		
			準決勝	群馬 1-2	小山			
			女子団体戦	1回戦敗退				
			1回戦	群馬 0-3	長岡			
			男子個人戦ダブルス	入賞者なし				
			男子個人戦シングルス	入賞者なし				
			女子個人戦ダブルス	入賞者なし				
			女子個人戦シングルス	入賞者なし				
柔 道	木更津	7月20日	男子個人戦	入賞者なし				
剣 道	産技品川	7月20日	男子団体戦	1位				
				予選リーグ	群馬 4-1	木更津、群馬 2-3	東京、群馬 4-0	長野 2勝1敗
				準決勝	群馬 4-0	産技荒川		
				決勝	群馬 4-1	小山		
			女子団体戦	2位				
			決勝リーグ	群馬 3-0	長岡、群馬 1-2	小山 1勝1敗		
			男子個人	2位	井原 啓賀	全国大会出場		
			女子個人	3位	須藤 雛子	全国大会出場		

コンテスト・全国高等専門学校将棋大会

ロボコン地区大会

今年は布に挑戦!

2M 新井 稜暁

僕たちロボット研究会は、10月6日に開催された高専ロボコン2019関東甲信越地区大会に出場してきました。今年のテーマはロボットが洗濯物を物干し竿に干す「らん♪ RUN Laundry」です。2台のロボットが協力して洗濯物を干し、得点と干された洗濯物の美しさで勝敗を決める、というルールで、2台のロボットのうち少なくとも1台は自動制御で動かなければなりません。ロボットが布を扱うという難しいこの競技に、ロボット研究会からはA、Bの2チームがどちらも両機自動ロボットで挑みました。結果は、両チームとも試合当日のトラブルで決勝進出することはできませんでしたが、2台のロボットをどちらも自動制御で動かすという他の高専にはない体制が評価され、Aチームが特別賞をいただきました。いい結果を残すことはできませんでしたが、僕自身も大きく成長できた、非常に有意義な大会でした。



Hondaエコマイレージチャレンジ

もてぎの蛾は大きかった

4M 新井 公平

9月28、29日にツインリンクもてぎで開催されたHondaエコマイレージチャレンジ2019全国大会にエコノパワー愛好会は四輪と二輪車(カブ)の2台で出場した。6月のもてぎ大会ではマシンが出走できないトラブルに見舞われたことから特に整備に注力した結果、四輪の546km/L、二輪の189km/Lという記録を達成できた。今回の大会で懸念となった新しいカウルは1年半の熟成を経たのちに、8月頃から急ピッチで作業が進められ大会の2週間前に完成したものの本番での信頼性に欠けるものだった。大会期間中でも試行錯誤で調整を続けながらの状態ではあったが、決勝走行で大きく燃費が伸びた要因であったことは間違いないと思われる。

来年も今年の反省を生かし、さらなる好記録を目指して、且つ愛好会の意義を考えたいので部員が真面目に活動できるような体制を作してほしい。



令和元年度 全国高等専門学校将棋大会

高専将棋大会の結果と今後の方針

3K 永島 政典

福岡県久留米市にある久留米シティプラザで、8/21~23の3日間にかけて行われた「第26回全国高等専門学校将棋大会」に出場しました。

例年通り、男子個人戦と団体戦に出場しました。しかし今年は例年とは違い、出場メンバー5人全員が個人戦に出場できるということで、メンバーは志気盛んに臨みました。

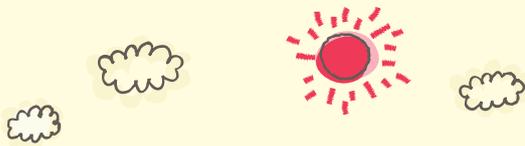
さて大会の結果ですが、団体戦も男子個人戦もとても惜しかったのですが、予選トーナメント敗退という結果になってしまいました。他の高専の人達との試合は、いろいろと勉強になることが多く、自分達はまだまだであるということを思い知らされました。

今回の大会では、団体戦及び男子個人戦で、思うような結果を残すことができなかったため、来年の大会では良い結果を残せるように、部員同士の対戦や定跡の研究などを通して、個々の棋力向上に努めたいと思います。



令和元年度 全国高等専門学校将棋大会結果一覧

種目	開催校	開催期日	出場者・結果		
将棋	久留米	8月21日 ~ 8月23日	団体戦	1回戦敗退	群馬 1対2 米子 東崎 瑞己 攪上 知哉 須藤 悠太 永島 政典 菊地 一智
			男子個人戦	予選トーナメント敗退	
			男子個人戦	予選トーナメント敗退	
			男子個人戦	予選トーナメント敗退	
			男子個人戦	予選トーナメント敗退	
			男子個人戦	予選トーナメント敗退	



主幹の翌年とその後

地区文発代表(学生会会長補佐) 狩野 琢磨

群馬高専が地区文化発表会の主幹を務めてから1年。本年度は、小山高専が主幹で開催されました。やはり、昨年度運営に回っていた立場だと、小山の運営が気になって仕方ありません。そんな中、雑談程度で小山の学生会に言った昨年度の反省点が小山主幹では改善されていて、「すごいな」と純粋に思いました。

しかし、負けずにすばらしいのが、群馬高専の学生の対応力。さまざまな急な変更、指示に柔軟に対応し、我々とりまとめ役が出て行く際もありませんでした。

本年度は例年と異なり、文化発表会について、学生会執行部がまとめました。この理由は、地区文化発表会の規約決めが難

航しているからです。何代、何十代のちでもわかり、運営がうまくいくような規約作成を関東地区学生会・学友会総動員で行っています。

私も、今後の地区文化発表会がうまくいくよう陰ながら応援させていただきます。



吹奏楽部

地区文化発表会での演奏を終えて

3J 石関 隼人

地区文化発表会では、特に2日目での他高専との合同演奏が印象に残りました。合同演奏では普段体験することのない大人数で、演奏しながらかなりの迫力を感じました。同じ楽器を演奏する多くの仲間がいるという安心感の中、その仲間の一人としてより良い演奏をしようと、のびのび演奏することができました。演奏した曲は多々あり、限られた時間の中、練習することは大変でしたが、演奏を通して良い経験ができました。



写真部

平成を振り返った文発

2M 小川 耕ノ介

今回の文発は、公募展入賞作品などの写真展示と、例年は無かった合同企画を行いました。「平成を振り返って」という難しいテーマで最優秀賞は取れませんでした。とても良い作品を展示することができました。他高専の方と交流したり、写真を見ることができ、とても有意義な時間を過ごせました。来年の文発は中止となってしまいましたが、再来年に向けて、さらに良い写真が撮れるよう技術を高めたいと思います。



文芸部

150部製本 タイムアタック

4J 二瓶 正之

開催前日の会場入り時点で、群馬文芸が配布できる冊子はひとつもありませんでした。人も時間も足りず、現地製本を敢行せざるを得なかったのです。なお、文芸部が厳しい環境に置かれているのは茨城でも同じだったようで、彼らの製本を手伝うことにより、茨城文芸の部長さんと私との間には、ある種の絆が生まれたように思います。

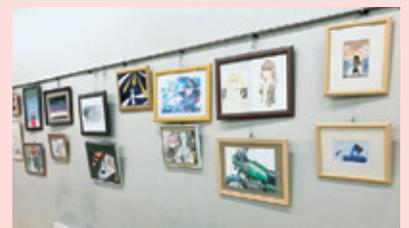


美術部

「成果を残した文発」

3E 宮原 陽来

美術部部長として小山文発に参加しました。今回の小山文発が無事に終わったことに一安心しています。今、美術部は3年生までの部員が20人を越える大きなクラブで、作品の数も多くなりました。今回の小山文発では美術系の部活動の作品でコンクールが行われ、本校の美術部員の作品が最優秀賞に選ばれました。部長としてとても誇らしいです。本校の部活動のほか、他校の美術部との交流もでき、とても有意義な文発になりました。



文化発表会



地区文化発表会

理科部

「緊張と興奮の分発」

3K 吉田 敦輝

8月23日から25日まで小山での文化発表会に参加しました。参加メンバーの中で自分が最高学年であったため責任が重く、行くまで非常に緊張していました。どう発表すればいいかを全員で相談し、資料の配置場所にこだわりました。最初はおぼつかない発表でしたが、お互いに協力し合い、しばらくした後はしっかりと良さを伝えることができていると思います。最終日には全員笑顔で、この発表会を楽しんでいたように感じました。



茶道部

文発にて

3M 高須賀 颯太

1年間の集大成である今回の文化発表会には、皆頑張って練習してきた甲斐もあり、多くの方にお茶を振る舞うことができました。

他校の茶道部の方々との交流は、他の流派の作法がみられるまたとない機会でもあり、私も部員もよい刺激になったと感じています。

来年度はオリンピックのため開催できないというのは残念ですが、再来年度に向けて日々稽古に励んでいきたいと思っています。



SF研究部

文発を経て

3C 市川 智也

先日、小山にて地区文化発表会が開催された。今回は群馬での開催であり、2年ぶりの遠出に、私をはじめ部員の誰しも、文化部所属の誰しもが心を躍らせていた。ホテルでの和気藹々とした宿泊やバスでの移動なども勿論楽しみであったが、やはり自分たちが準備してきた出展を他校の学生らに見せられるという喜びが大きかった。バスに揺られ会場へ到着し、周囲の注目の中で無事に展覧を披露でき、大きな達成感と幸福感を得られた。



電算部

「初めての文発を終えて」

3E 新延 空也

今年の文発で電算部は展示できるものがなく、部誌のみの配布でした。そのため、寂しいブースではありましたが、例年より部誌が渡せたようなのでよかったです。ところで、私は文発初参加でした。他高専の部活動はユニークでおもしろいものが多く、また、他高専の知り合いとも会えたので楽しむことができました。近隣の高専の部活と交流できる機会は滅多にないので次回も是非参加したいです。



演劇部

地区文化発表会を終えて

3E 三俣 喜成

我々演劇部は地区文化発表会でコントを2本上演させていただきました。初出演の1年生も多かったため始めは心配でしたが、見に来てくださった皆様が笑って帰っていたので大成功で終わりました。他高専さんの演劇部の公演も見させていただいて大変勉強になりました。この経験を生かして精進していきたいと思っています。とても有意義な3日間でした。



ダンス愛好会

女子カボンジュール
絵日記

4M 高田 琴乃

私たちダンス愛好会は今年の5月に設立され、この地区文化発表会が初めての発表会でした。

4ヶ月という限られた期間の中で曲を決め、振り覚え、合わせたり、その時の私たちにとってはとても大きなチャレンジでした。コーチやダンス指導できる先生がいないため自分達だけで振りを確認しあったり、ダンススタジオで練習したり、予想以上に大変でした。文化発表会では小山高専と東京高専もダンス愛好会が出演していて、時間があつた時一緒に練習したりして交流しました。そこで他高専のレベルの高さに圧倒されました。

来年からは設立初年度だからという言い訳は通じません。部員一同精一杯頑張り、あわよくば愛好会から部になれるよう日々精進していきます！





1

日

研

自然を感じられる素敵な場所

1年1組(E) 岡田 康暉

5月28日、1年1組は国営武蔵丘陵森林公園へ行ってきました。この公園は南北に4km東西に1kmの広い公園でした。ですので、みんな自転車を借りて移動をしました。私は「都市緑化植物園」や「ハーブガーデン」などに行きました。見たことない植物がほとんどで、説明を読みながら見て回りました。お昼は、展望レストランで食べました。窓の外には緑が隙間なく広がっていました。この研修旅行で自然を知るだけでなく、多く感じることもできたと思いました。



『シャンティクティ』

1年2組(J) 石澤 ひなの



トトロが現れそう。

到着後真っ先にそう思ったその場所はシャンティクティという長野県にある施設でした。辺りは木々に囲まれ、風や川の音、鳥の音が響き渡る長閑な場所で自然との共存方法を身をもって学びました。普段はゲームばかりしている男子も虫を怖がっていた女子も帰る頃には自然と仲良くなっていたように思います。

童心に帰って自然と触れ合うこと。

忘れていた楽しさを思い出し、とても有意義な時間を過ごせました。

toruの部屋

1年3組(K) 西郷 さくら

私たちのクラスは5月28日に茨城県つくば市にある高エネルギー加速器研究機構と筑波実験植物園に行きました。高エネルギー加速器研究機構では加速器が動く仕組みを学んだり、放射光実験施設を見学したりしました。植物園では世界中の珍しい植物を見ることができました。クラスメイトともたくさん話すことができ、非常に充実した1日になりました。



実りある一日

1年4組(C) 松田 祥雅



1年4組は、茨城県つくば市にある高エネルギー加速器研究機構（高エネ研）と筑波実験植物園へ行きました。高エネ研では、複雑な装置についての説明を聞き、初めて見る巨大な機械に驚嘆の声があがりました。筑波実験植物園では、群馬高専のシンボルのひとつである「メタセコイア」の知らなかったルーツを学びました。最先端の技術や多様な植物を身近に体感して自分の将来を考えることができた貴重な体験となりました。

私たちの将来に向けて

1年5組(M) 渡邊 将斗

私たち1年5組は研修旅行で、花王川崎工場へ行ってきました。はじめに工場の説明を聞いた後、生産工程の見学に行きました。生産工程を見学して気づいたことは、従業員の数がとても少ないということです。製品を作る工程から、箱詰め作業、棚に積んである商品の取り出しなど全て機械が行っていて、私は衝撃を受けました。

最後に群馬高専卒業生お二人の方のお話を聞きました。これからの高専生活の過ごし方、また、目標をもって勉強することの大切さを知ることができました。

研修旅行を通して将来に向けて今何をすべきなのかを学ぶことができました。



修

旅

行



研修旅行へ行って

2M 永井 孝太

私達、2年機械工学科は小松製作所と足利学校と東武冶金へ行きました。特に印象に残っていることは小松製作所で生産ラインを見学させて頂いたことです。効率よく車体を組み立てるために、部品や工具を専用の台に載せることで毎回必要なものを探す手間をなくす工夫や作業している人が腱鞘炎にならないように振動の少ない電動工具を使用するなどの工夫がしてありました。作業者の立場になって効率や作業のしやすさがよく考えられていると思いました。



のんきなキョロちゃん

2E 坂上 文太



2Eは森永製菓小山工場を訪れました。工場内には、金や銀のエンゼルで交換できる「カンツメ」や様々なお菓子など、歴代商品のレプリカが飾られていました。今年で創業120周年を迎えるそうで、その長い歴史にも触れられた一時でした。最後にはお土産として珍しい味のチョコボールも頂きました。少しだけ期待して開けてみたものの、残念ながらエンゼルにお目にかかることはできませんでした。それでもやっぱり美味しかったです。

2J研修旅行

2J 八木 総太

私たち2JはJR鉄道総合研究所に行きました。私たちにとって身近な交通機関である鉄道にどのような工夫がなされているかやその変遷について学ぶことができ、JRの技術者の皆さんのように、私たちも今ある技術の問題点を見つけて改善し、より利用者が使いやすくなるように努力する姿勢を身につけたいと思いました。忙しい中私たちのことを案内してくださった鉄道総合研究所の皆さん、ありがとうございました。



「興味が詰まった研修旅行」

2K 清水 弥央



私達は研修旅行で大日精化工業(株)東京製造事業所と東京農工大学科学博物館へ行きました。大日精化ではプラスチックの色の配合や、着色材が製造される様子を見学し、博物館では生糸の歴史や種類、生糸を製造する様々な種類の機械の展示を見ることができました。私はタンパク質を多く持つ蚕が医療の発展に貢献する可能性に一番興味を持ちました。たくさんのことを学んだ初めての学科別の研修旅行は、とても貴重な経験となりました。

「ダム見学」

2C 福田 幸樹

僕たち2Cは、5月28日にハツ場ダムと品木ダムを見学しました。ハツ場ダムは祖父の家が近いので身近に感じていましたが、凄く近くで見ると映画に出てくるような巨大な壁みたいで迫力がありません。品木ダムの見学では、草津中和工場で河川水が石灰石粉と混ぜてミルクティーみたいになっているのが印象的でした。最近では、ハツ場ダムが台風による利根川の決壊を防いでいて素晴らしいと思いました。



国際交流室から



オーストラリア語学研修と海外学生研修

国際交流室長 崔 雄

本科4年生27名、専攻科生2名の学生が夏休みを利用して、オーストラリアのニューカッスル大学で英語を学びました。語学研修の成果を10月18日の報告会で英語により発表を行いました。班ごとにオーストラリアでの経験、オーストラリアの生活、オーストラリアの観光などについて報告がありました。モンゴル学生研修では9月3日(火)～9月12日(木)まで群馬高専14名とモンゴル高専生が3グループを構成し、オムニバス形式で研修を行いました。週末には、モンゴルテレルジ国立公園に移動し、モンゴルの自然や異文化を体験しました。さらにマレーシア学生研修では8月17日(土)～9月1日(日)まで専攻科生3名がマレーシア科学大学で

行う化学関連のプログラムに参加しました。化学に関する専門の講義および実験を英語で学ぶとともに、マレーシア科学大学の学生との国際交流を行いました。

オーストラリア語学研修および海外学生研修に興味がある学生たちは、是非来年度の研修にチャレンジしてみてください。



オーストラリア語学研修

参加報告

「外国人になってみて」

4J 大久保 拓哉

オーストラリア語学研修に行くことは、群馬高専入学当時の夢でした。英語でのコミュニケーションや外国での生活には不安がありましたが、それでも行きたいと思い、この語学研修に参加しました。



オーストラリアに到着してすぐに感じたのは、自分が今、外国人であるのだということでした。知らない文字ではないが、周囲の文字がすべて英語で書かれ、尚且つ周囲の人々が英語で会話をしている状況は非常に新鮮でした。現地では、英語を母国語とする人に限らず、中国や韓国、サウジアラビア出身の人など、英語を母国語としない人とも英語でコミュニケーションをとり、お互いの文化を知り、交流を深めました。

この1か月は、英語での生活、異文化交流、オーストラリア特有の地形など、見るものすべてが自分にとって新鮮で、思い出に残る1か月となりました。この語学研修に参加できたことを嬉しく思います。

「成果」

専攻科生産システム工学専攻 1年
岡田 颯太

私は英語へ大きな苦手意識を感じていました。そのため、今回の語学研修に参加することになりました。当然、口から英文がすらすらと出ることはなく、ホストファミリーに単語単語を拾ってもらうようなコミュニケーションが続きました。そのような生活の中、ホストファミリーから上達していると言ってもらえたことや他国籍のクラスメイトとの会話が成立したことは大変励みになりました。

また海を越えることが初めてというのもあり英語の勉強以外にも本当に様々な体験をすることができました。最終的には世間話が簡単な英語のみで続けられる程度になりましたが、本当に良い研修となりました。



「語学研修を振り返って」

4K 福島 花奈

この夏休みを利用して、オーストラリアのニューカッスルに1ヶ月間語学研修に行きました。

私が語学研修に参加した理由は2つあります。1つ目は、英会話力を上げたかったからです。日本で外国人に道を聞かれても、返答することが出来ず、悔しい思いをしました。でも、今回の研修でホストファミリーやクラスメイトと英語を話しているうちに、英語への抵抗が無くなり、また全然出来なかった英会話も少しだけ上達したと思うので、今度こそ返答できるのではないかと思います。

2つ目は、英語圏の外国に行き、現地の生活に触れてみたかったからです。現地のスーパーは、お惣菜が売っていない、パンの種類が豊富など日本と違って面白かったです。また、手を挙げないとバスが停まってくれないことには驚きました。さらに、オーストラリアは水が貴重な国なので、シャワーを3分から5分で済ませなければならぬのがかなり大変でした。

週末、友達と買い物や海、シドニー旅行に行ったのが一番心に残っている思い出です。ニューカッスルは海がとて綺麗な街でした。また、ニューカッスルからシドニーへは電車で3時間掛かりました。シドニーの街並みや夜景はとて綺麗でした。さらに、オーストラリアの夜空は日本より星が多く見え、綺麗でした。行った際は是非夜空を見上げてみてください。少しでも興味があつたら、行って後悔は絶対しないので語学研修に参加することをおすすめします。



モンゴル海外派遣研修

「サンバイノー!」

3M 玉井 志穂

私たちは9月3日から12日までの10日間、モンゴル研修に参加させていただきました。

モンゴル高専の学生たちはとても親切で、日本語や英語、ジェスチャーを使ってコミュニケーションをとり、一緒に買い物や観光に行きました。交流を深めるために、私たちの班では折り紙やあやとりなどを行ったところ、私よりもいろいろな折り紙ができる子がいて驚きました。日本の文化に興味を持ってもらえて、嬉しかったです。

初めての海外で、自分たちの生まれ育った日本とは大きく異なる文化を体験することができ、素晴らしい体験になりました。



参加報告

あつという間の10日間

3E 簾谷 京平

10日間私たちはモンゴルの首都ウランバートルに滞在しました。3日間モンゴル高専の学生とイライラ棒作り、折り紙、あやとり、ピタゴラスイッチ作製を通して交流しました。初めはとても緊張していましたが、モンゴルの学生はとてもフレンドリーですぐに仲良くなれました。他にも市内を観光したり遊牧民の方とモンゴル家庭料理を食べたり星空観察で流れ星を見たりとモンゴルを堪能しました。あつという間の10日間でしたが、最高の10日間でした。



「10日で作る日モ友好」

3K 櫻井 祐太

今回の研修で我々は日モ友好の種を蒔いてきました。その過程で多くの親切なモンゴル国民に出会えて、嬉しく思います。和やかで気さくな性格は数々の写真にも表れていて、結束の精神はこのページを突き破る勢いがあります。勝手な物言いながら、世界平和の精神的具現化としたい思いです。それは草原に沢山のゲルと神社が点在しているイメージで、晴れた日の山頂から一望の下に納めることが出来るのであります。



マレーシア科学大学サマープログラム

参加報告

ドリアンって本当はおいしい?

専攻科環境工学専攻 1年 都丸 大晟

私はマレーシア科学大学のサマープログラムに参加してきました。プログラム中は大学の学生らと共に授業に参加したり、食事をしたり、買い物に行ったりしました。

マレーシアでは多くのことを得ることができました。ほかのインターンシップに比べて、多少の費用はかかりますが、それ以上のものを得ることができます。ぜひ、あなたもサマープログラムに参加してドリアンの味を確かめてみてはいかがでしょうか。



また行きたい・・・

5K 上遠野 佑紀

高温多湿といわれるマレーシアですが、最高気温は同時期の日本より低く、過ごしやすい陽気でした。また、マレーシアは「グルメ天国」と謳われており、頬が落ちるような絶品料理ばかりでした。

プログラムを通しては、化学分野の新たな知識や技能、英語学習に対するモチベーション等を得ることができました。経験一つひとつが、自らの様々な能力を向上させるうえで大きな糧となっていることを、実感できています。

なお、写真は、現地で散見するブルメリアです。





インターンシップ支援室から

まず、インターンシップ研修生を受け入れ、教育していただいた派遣先の皆様に、深く御礼申し上げます。ありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。

また、4年生インターンシップを調整・実施するにあたり、4年生担任の先生方には多大な支援を頂きました。感謝申し上げます。

写真は、「インターンシップマナー研修会」と専攻科1年「インターンシップ報告会」の様子です。今年度の実績（履修学生数）を昨年度と比較した表を示します。語学研修を含まな



マナー研修会



報告会

室員：先村 律雄（室長）、花井 宏尚、鈴木 一史、松本 智美（学生課教務係）

い本科4年生の合計は122名で、4年生全体の凡そ6割が履修したことになります。今年度は、一般公募に挑戦した学生が多く、来年度は公募のタイミングに合わせた早めのガイダンスをおこなう必要があると考えています。

キャリア教育のひとつである「インターンシップ」を履修したことが学生の勉学意欲向上につながることを、インターンシップ支援室スタッフ一同、期待しています。

2019年度インターンシップ履修者数

(1)専攻科1年(必修科目) ()内人数：平成30年度

専攻	企業	大学、研究機関	国、自治体	小計	語学研修	合計
AP1	22 (13)	2 (3)	0 (1)	24 (17)	1 (0)	25 (17)
AE2	6 (6)	7 (6)	0 (0)	13 (12)	1 (1)	14 (13)
計	28 (19)	9 (9)	0 (1)	37 (29)	2 (1)	39 (30)

(2)本科4年(選択科目)

学科	企業	大学、研究機関	国、自治体	小計	語学研修	合計
4M	22 (14)	3 (0)	0 (1)	25 (15)	5 (1)	30 (16)
4E	18 (17)	1 (1)	0 (1)	19 (19)	6 (6)	25 (25)
4J	14 (19)	1 (0)	2 (2)	17 (21)	3 (0)	20 (21)
4K	17 (21)	5 (11)	0 (0)	22 (32)	9 (4)	31 (36)
4C	27 (21)	1 (2)	11 (10)	39 (33)	4 (7)	43 (40)
計	98 (92)	11 (14)	13 (14)	122 (120)	27 (18)	149 (138)

土木を新たな視点から

専攻科環境工学専攻 1年 中村 優作

私は9月2日から13日まで、株式会社小松製作所のインターンシップに行ってきました。コマツは、主に建設・鉱山機械、林業機械、産業機械の事業をグローバルに展開している会社です。その中で、建設機械のスマートコンストラクションという、最先端の情報技術を用いて現場を3Dデータ化し、施工の安全性・生産性を向上させる技術について、深く理解

することができました。近未来を感じさせるその技術が実際に活躍している様子を見ることができ、全く新しい形の施工現場を思わせる姿に心躍りました。私が普段学んでいる土木分野の最新技術を、建設機械という視点で知る、非常に貴重な経験になりました。



ユリイカ

4C 井澤 亮介

私は国土交通省の関東地方整備局、高崎河川国道事務所のインターンシップに参加した。主に業務内容の説明や現場見学をさせて頂いた。見学させていただいた現場の中には、先日の台風19号にて、試験湛水中にも関わらず見事な活躍をしたことで話題のハツ場ダムもあった。他にも、施工中の新三国トンネルなど、規模の大きな現場を見学させて頂いた。

国交省と聞くと格式高いイメージがあったが、実際はそのようなことは無く、地域との距離の近さを感じる事が出来た。改めて公共事業の大切さを実感し、将来土木技術者として社会に貢献したいという想いが強くなった5日間であった。



“実際”を目にするインターンシップ

4M 齋藤 鈴花

今年の夏休み、私達はインターンシップへ行った。各々が自分が行きたい企業や、説明会等で興味を持った会社に、5日間に渡り就業体験をさせていただくのだ。

私は高専内で行われた合同企業説明会で興味を持った印刷会社へ行った。そこでは印刷機械を動かす部署、その機械を改良・製作する部署、新たな素材を生む化学的な部署、まさ

に“幅広い”知識が実際の現場で応用されていると知った。また、5日間の中で関連企業も見学させていただいた。

企業で行われることは、想像と自身で見たものとは大きな差があった。今後は他の企業も実際に見て、自分の将来を考えていきたい。





着任挨拶

果てしないイギリス文学の旅路

一般教科(人文科学) 講師 **板谷 洋一郎**

令和元年9月より、群馬高専一般教科(人文科学・英語)の講師として着任した板谷洋一郎です。本校の学生の英語学習を色々な面でサポートできればと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私の専門は、イギリス文学です。主な研究対象は、20世紀前半を中心に活躍したD・H・ロレンスという作家です。ロレンスは、労働者階級の描写、人間の(無)意識に対する関心、独特の身体描写などで知られています。

これまで文学理論や比較文学の角度から研究活動に従事してきました。最近では、ロレンスの先住民や古代人の思想・宗教に対する関心や、物語論(ナラトロジー)の見地から彼の作品を考察しました。

ロレンス以外では、時間、記憶、歴史をテーマにしている現代イギリス作家の研究も行っています。所属学会では、カズオ・イングロの研究者らと定期的に研究会を行っています。

ロレンスも現代作家も裾野の広い研究分野なので、批評の傾向や私自身の観点を踏まえつつ、研究活動に邁進していきたいと思っています。

英語教員としては、本校の学生が実践的な英語力を身に着けることを支援していきたいと考えています。また、私自身の留学経験も活用して、国際交流を推進し、学生たちに視野を広げるよう促していきたいと思えます。

以上、簡単ではありますが、私の自己紹介とさせていただきます。今後とも、よろしくお願いいたします。



Profile

- ① 出身地
東京都青梅市
- ② 前職
中央大学兼任講師
- ③ 最終学歴
中央大学大学院文学研究科英文学専攻
- ④ 研究分野
イギリス文学
- ⑤ 趣味
読書、ジョギング、釣り
- ⑥ 座右の銘
「驚きは、知ることの始まりである。」(プラトン)

群馬高専卒業から再び群馬高専へ

専攻科 特命教授 **橋本 修一**

2019年9月1日付で着任しました橋本です。私は1988年より2005年までの17年間、一般教科 自然科学で化学を担当しました。同時に工業化学科・物質工学科の授業や卒業研究を担当し、約50名の学生が橋本研で光化学の実験をして巣立ちました。2005年より徳島大学工学部に研究室を開き、レーザーと顕微鏡を使ってナノ材料工学の研究をしておりました。昨年、定年退職を迎え、その後、論文、本の執筆をしておりましたが、この度、専攻科長の太田先生をはじめ物質工学科の先生方にチャンスをいただき、高専教育のお手伝いをするようになりました。



徳島大学ではダブルディグリーやドイツの大学との交流事業に関わった経験から、群馬高専と海外との連携に力をいれたいと思います。また国内の大学等との連携教育に取り組み、学生の皆さんがより広い視野をもてるようサポートしたいと思います。

少しでも群馬高専のお役にたてるよう頑張ります

看護師 **伊藤 恵**

この度、令和元年7月1日より保健室勤務となりました、看護師の伊藤恵です。勤務時間は12時15分より19時までで、月曜から金曜までおります。群馬高専で勤務する前は母校



である群大病院のCT室やMRI室などで造影剤の注射を7年ほどやっていました。その前はケアマネや開業医院で勤務をしておりました。この度、ご縁をいただき、群馬高専に勤務することになり、大変ありがたく感謝の思いでおります。病院の看護業務とは違い、学生さんの身体や心の不調にどう寄り添っていったらいいのかまだまだ手探りの状態です。至らぬ点も多く未熟ではありますが、自分の子育ての経験なども生かし、しっかりと保健室業務を頑張っていきたいと思っています。今後ともどうぞ皆様、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

球技大会

令和最初の球技大会

一般教科(人文科学) 教授 櫻岡 広

元号が令和に代わって最初の球技大会が、令和元年6月27日(木)に行われました。専攻科も含めると6年の年齢差がある学校です。上級生が上位に来るのが当たり前なのですが、昨年度あたりから低学年の活躍が目につくようになってきました。

例年のことですが、審判をしてくれる各運動部の学生諸君に感謝します。

結果は以下の通りです。

	優勝	2位	3位
ソフトボール	4C	5M	5E
バレーボール	5K	5J	3E
テニス	5M	5K	1-3
フットサル	専攻科	4E	2-3, 4K
バスケットボール	1-3	専攻科	2-2, 4C
卓球	3J	2-4	2-3

(テニス、フットサルはトーナメント表に3位決定戦の記録がありませんでした。)



寮祭

寮生バンザイ☺

寮祭実行委員長 加藤 拓航

今年も待ちに待った寮祭が開催されました。

1日目は、スポーツを行いました。男子はバスケットとバレーボールを、女子がドッチボールをしました。普段、先輩後輩が交流する機会がほとんどないため、スポーツを通して一緒に体を動かしたことで、少なからず互いの距離を縮められたのではないかと思います。

2日目には喫茶が開かれたり、バンドステージやビンゴ大会などの企画が行われたりと寮生に限らずどんな人でも楽しんでもらえるイベントが盛りだくさんでした。そして、最後には下級生たちによる5年生大感謝祭が行われ、感動に包まれながら寮祭が終了しました。今年は今まで最高の寮祭となりました。寮祭に携わったみなさんありがとうございました。



夏季地区交流会

地区交流会に参加してきました!

学生会会長 中島 弘翔

7月6日、7日に、産業技術高専荒川キャンパスで開催された夏季地区交流会に参加してきました。地区交流会とは1年に2回開催され、関東信越地区の高専の学生会・学友会役員の学生と会議・交流を行います。会議は、自校の学生会活動をより良いものにするために他校の意見を聞いたり情報を提供したりしています。交流は、会議などをスムーズに進行するためや意見を出しやすくするために、他校の近い役職の学生同士で仲を深めるレクリエーションなどが行われます。

私は今回が5回目の地区交流会参加でしたが、毎回主幹校が異なり、新鮮な気持ちで参加してきました。毎回とても有意義な時間を過ごせる交流会でした。そこで出された意見は、できる限り群馬高専の学生会活動に活かしていきます。これからも信頼される学生会執行部を目指して活動していきます。



国際交流セミナー

量子工学からの熱いエール

電子メディア工学科 教授 五十嵐 睦夫

国際交流室では、来日中の海外の研究者をお招きして、学生・教職員を対象に国際交流セミナーを開催しています。今年度は、令和元年7月2日(火)にスロベニア共和国ヨゼフ・ステファン研究所ピーター＝イェグリッチ博士から「超冷却原子で展開される量子工学の世界」について英語で講演いただき、レーザーによる原子冷却等を平易に解説していただきました。講演後には、量子工学の今後の見通しや具体的な経費についてなど、聴講した学生から直接に英語での質問が飛び出しました。イェグリッチ博士からはこれからの世代である聴衆の学生に対する熱いエールを盛り込んだメッセージが返答され、会場は大いに盛り上がりました。



さくらサイエンス (モンゴル)

群馬高専とモンゴルの3高専との交流

国際交流室長 崔 雄

令和元年10月6日(日)から10月13日(日)まで、モンゴルの3高専から学生10名と引率教員1名を招いてさくらサイエンス交流を行いました。

本受入れプログラムでは、IT・電子・メカトロニクス・物質に関連する科学技術のテーマに基づいた体験及び見学ができる研修内容を設定し、モンゴル3高専生が以下の実習を行いました。

- ・3DCGアニメーションを作成し、最新のIT技術を体験しました。さらに、光学式モーションキャプチャを体験し、身体動作計測の原理を理解しました。
- ・マイクロコンピュータによる簡単なプログラムや電子回路の作成を行い、原理の理解を深めました。
- ・ロボットキットによるメカトロニクス体験を行い、ものつくりの基本を学びました。



- ・蛍光と化学発光の観察を行い、科学の興味を深めることができました。

学生たちは各テーマの内容に大変興味を持ち、研修に積極的に参加し、活発に意見交換をしました。

本受入れプログラムは科学技術交流のほかに、先端技術の広報の場としての日本科学未来館の見学、ダムによる治水事業について学ぶ場として群馬県内の八ッ場ダムの見学、近代日本の産業発展の学び場としての富岡製糸場の見学も行いました。

今回のさくらサイエンス交流により、エンジニアを目指すモンゴル国の若者に対して科学技術への関心を向上させ、日本の科学技術に対する理解を深めさせることができたと思います。さらに、今回の交流プログラムを通して、日本人の考え方、日本の先端技術そして日本文化を知る一つのきっかけとなったと考えます。

またそばを食べたい

3J ボヤンバド ビレグト

2019年10月の5日と6日、群馬高専の3年生留学生は長野市で行われた関東信越地区国立高等専門学校外国人留学生交流会に参加してきました。本交流会では関東地方の7つの高専が参加し、28人の留学生が集まりました。うちの群馬高専から、C科の木村先生引率で3Kのアメール、3Kのドギー、3Jのビレグトの3人グループで行きました。

始めの日は善光寺を見ました。善光寺について町の人に説明されながら歩き回ったので、面白い話がいっぱいありました。また、真っ暗の狭い通路があり、もしその中である「かぎ」を見つけて触れると、天国に行けるといわれているお戒壇めぐりに、行ってみました。そして、かぎを見つけてとてもうれしかったです。

次の日は戸隠エリアへ行って、「とんくるりん」にてそば打ち

体験をしました。そば作りを学びながら、自分たちの昼食を作るのがとても面白かったです。次に、忍者村や戸隠神社奥社など色々な所を見学しました。忍者村にゆっくりして、よく遊びました。

交流会をきっかけに、久しぶりの友達にあって、他の高専の友達もできて、他高専の生活について色々な情報を交換できました。また、日本の文化を沢山学び、他の国についてもよく学ぶことができました。

留学生交流会



戸隠神社 中社にて

在外研究報告

「マックス・プランク宇宙物理学研究所より」

一般教科(自然科学) 准教授 渡邊 悠貴



マックス・プランク宇宙物理学研究所外観

今年度は一年間、ドイツ南部のミュンヘン近郊に滞在して研究に専念する機会を得ました。ミュンヘンは10年前に博士号を取得して初めて研究員として赴任した都市で、当時とは変わった事も多いですが、戻って来られて感慨深いです。



宇宙論グループ

今回訪問しているマックス・プランク宇宙物理学研究所の宇宙論グループは小松英一郎所長の下15名くらいの構成員が所属しています。彼らは10以上の様々な国・地域の出身で、ドイツ人は3名のみなので公用語は英語です。とて

もフレンドリーな面々ですが、昼食時にイランとイスラエル出身者の(政治的な)議論が白熱すると、少し心配にもなります。

世界中の著名な研究者が頻りに訪問してくるので、研究面ではとても良い刺激を受けられます。こちらに来てから始めたインフレーション宇宙の共同研究も、最初の3ヶ月は文献と格闘していましたが、7月中旬に画期的な解決方法を思い付き、解析を進めてみると良い展望が得られました。9月には研究成果をベルギー・オランダとの国境の街アーヘンとケンブリッジ大学で開催された国際学会にて口頭発表しました。非常に興味を持ってもらい4ヶ所からセミナーに招待されたので、結果を論文の形で発表した後、冬の間に各大学を訪問してこうと考えています。

第20回正観寺沼野鳥観察会(サギのねぐら入り観察)

野鳥観察会

地域連携テクノセンター副センター長 宮越 俊一

学生の皆さんは夏休み中でしたが、2019年9月6日(金)の夕暮れ時、正観寺沼(群馬高専西湖)で、この時季恒例のサギの観察会が開催されました(「日本野鳥の会 群馬」と共催)。天候にも恵まれ、西湖の中ほどの島に100羽ものダイサギが次々にねぐら入りするのは、いつもながら壮観です。薄暗い条件下のわずか1時間でしたが、5種のサギ類をはじめ計18種類の野鳥を、36名の地域の参加者の皆さんとともに観察することができました。



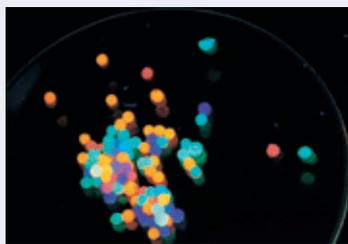
この野鳥観察会もすでに10年、20回を数えるまでになりました。この間、延べ700人を超える方に参加いただいたこととなります。支援いただいている関係の皆様にお礼申し上げます。

「光るイクラが未来を語る!! エネルギーを放出するイクラを作ろう!!!」報告

ひらめき☆ときめきサイエンス

物質工学科 教授 太田 道也

科研費の成果普及活動の一環で、子供達に直接見る・聞く・触れることで科学に興味を深めてもらう事業に昨年度に引続き採択されました。今年度は一つのテーマで2回にわたって開催しました。発光というエネルギー放出の現象を化学発



人工イクラの発光

光と蛍光の二つの実験を体験してもらいました。受講生には非常に好評で、化学発光の鮮やかな光の放出と光励起されたときにのみ光る淡い蛍光の違いを不思議と好奇心を持って体験していただけたようです。開催当日は上毛新聞とぐんま経済新聞で取材を受けて新聞に記事が掲載されました。お世話になった多くの方々はこの場をお借りして感謝申し上げます。



化学発光の観察

電子メディア工学科講演会報告

本講演会は、令和元年5月16日（木）の午後に実施されました。今回はE科卒業生（当時は電気工学科）でもある千葉様に「基礎科学研究を支える技術者としての歩み－国際共同プロジェクト「アルマ望遠鏡」を中心として－」というタイトルでお話いただきました。千葉様は、本校を卒業後、一般企業への就職を経て東京大学原子核研究所から国立天文台に移られ、退職後の現在は某大学の博士課程にて研究を続けておられます。

お話としては、国立天文台勤務のときに関わられた、チリの標高5000mに設置されているアルマ望遠鏡の建設プロジェクトの内容を中心に、基礎研究の大切さや将来を活躍するう

電子メディア工学科 講演会

電子メディア工学科 准教授 布施川 秀紀

えで身に着けるべきスキルなど多岐に渡るお話をいただきました。先頃ニュースになったブラックホールの撮影の話などもありました。



電子情報工学科 講演会

エンジニアの道を選ばなかった先輩からの熱いメッセージ

電子情報工学科 准教授 荒川 達也

令和最初の電子情報工学科講演会は、株式会社フォーチュレックの塚田裕太先生をお迎えして、令和元年7月19日に開催されました。塚田先生は本学科の卒業生で、専攻科から大学院を経て、イベント関連の企業で、主にプロジェクトマネージャーとしてキャリアを積んでおられる方です。高専出身でありながら、あえてエンジニアの道を選択せずにマネジメントの道へ進んだ経緯－そして、それにも関わらず、あるいはそれだからこそ、高専で学んだ工学分野の知識が大きな強みとなっているというお話に、電子情報工学科学生教職員一同、引き込まれるように傾聴しました。講演は熱く、激しく、それでいて

ユーモアに富み、高専生活の思い出や、ときには業界の裏話なども交えながら、笑いあり、涙あり(?)、そして最後には活発な質疑応答で締めくりとなりました。



はやぶさ2に期待を馳せて

令和元年10月10日に、平社先生の紹介により国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所(JAXA)の津田雄一氏をお招きし、機械工学科3～5年生を中心に「はやぶさ2プロジェクト」について、講演を戴きました。プロジェクトリーダーとして、準備段階から現在の活動に至るまで、人工衛星の緻密な重量設計を始め、人類初のプロジェクトをいろいろ考案し、理学と工学の架け橋を取り持ちながら、素晴らしい成果を上げてられています。

3億km離れた世界は13分後の状態しか見られないけれど、一つ一つの動きを頭に描きながら今どうなっている! とい

機械工学科 講演会

機械工学科 教授 黒瀬 雅詞

うイメージを持ちながら、はやぶさ2を動かしているそうです! タッチダウン目標地点との誤差はわずか1m! 1/300,000,000,000の精度な訳です。みんな目を輝かせて話に聞き入り、多くの質問にも丁寧に答えてくださる津田氏に感激しきりでした。夢とエールをもらえた素晴らしい講演会となりました。



春の叙勲【瑞宝小綬章】

「瑞宝小綬章を戴いて」

群馬工業高等専門学校 名誉教授 水出 正一



私は、昭和43年4月に群馬高専の電気工学科（現在の電子メディア工学科）に講師として勤務して以来、36年間（電気工学科26年、一般教科自然10年）お世話になり、平成16年3月定年で退職しました。

この度、令和元年春の叙勲で、瑞宝小綬章を頂きました。私にとっては、身に余る光栄なことではございます。

電気工学科での授業は、基礎・強電・弱電の3部門に大別され、私は低学年の基礎科目を担当しました。正課の授業の他に電気工事実習を行っていたので、桐生工業高校で生徒と一緒に電気工事士を受験したことや、その指導経験を踏まえて指導に加わりました。当時本校は、「電気主任技術者第2種」の認定校となっており、専門科目のカリキュラムの変更に伴う「学校認定変更届書」を東京通産局へ持参し、卒業生の「電気主任技術者免状」交付申請に必要な本校の「専門科目履修証明書」発行事務なども担当（延べ53件）してきました。

最初の担任経験を踏まえて、その後の担任時には、学生に身近で具体的な目標をもつよう指導してきましたが、平成3年4回目の電気工学科1年生を大島由紀夫先生と受けもったとき、

工業英検受験を勧め（HRの10分間学習）

しました。日本工業英語協会にお願いをして同年11月の第22回工業英検を本校（準試験会場）で実施し、クラスの16名が受験し、15名が4級に合格しました。（全校では、3級2名、4級43名合格）その後、8年度までは春、秋の年2回、9年度からは年1回春の受験の世話をしてきました。15年度までの合格者総数は、2級8名、3級163名、4級339名でした。

また、校内美化を掲げて尽力された、学生主事の加藤先生の後を受け、平成8年10月から学生主事（2年半）を務めました。当時、校内の学習環境は芳しくなく、学生のマナーやモラルの低下も見られたので、専門委員の小幡、白石両先生の協力を得ながら、校内美化とマナーアップ・モラルの向上に努めました。

現在は、東吾妻町の実家に戻り、少しの畑を耕し、野菜作りを楽しんでいます。

学位取得

学位取得にあたって

環境都市工学科 助教 井上 和真

この度、京都大学にて、博士（工学）の学位を取得することができました。学位取得にあたり、多くの方々からご配慮と励ましの声をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

京都大学防災研究所の五十嵐晃教授のご指導の下、『2方向入力地震動に基づく構造物の耐震性能評価に関する研究』という題目の博士論文をまとめました。

博士後期課程に入学した2016年10月当時は、前職である大成建設株式会社原子力本部にて、原子力施設の耐震設計やそれに関わる研究に従事しておりました。現在の構造物の耐震設計は、水平1方向入力地震動を仮定した設計用地震動が採用されておりますが、実際の地震動は水平2方向に複雑に

震動します。1方向と2方向地震動による構造物の地震応答を比較することで、2方向入力による影響を定量的に評価するとともに、2方向地震動に対しても耐震性能が向上するような方策も示しました。

引続き、世界の地震災害の軽減に貢献できるように、教育・研究に邁進して所存です。



編集後記

この秋は、台風19号による記録的な大雨で甚大な被害がでました。現在も復旧活動が進められている被災地に、安心できる生活が一日も早く戻ることを願います。今号では、工華祭の記事を中心に、部活動・各種コンテスト参加や海外研修の報告を通して学生の生き生きとした活躍をお伝えします。

(学校広報担当 大和田 恭子)